

資料1

県庁舎移転後の跡地活用に係る整備可能性予備調査

中間報告(抜粋)

## 整備可能性予備調査

### 1. ホール

- (1) 運営形態について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 市内ホールの評価と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) ホールの規模感に関する意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (4) 事業シミュレーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (5) 収支結果及び経済性・文化性に関する評価・・・・・・・・・・ 13

### 2. 歴史系資料館

- (1) 長崎歴史文化博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (2) テーマ特化型歴史系資料館と総合博物館（中心施設）の共存事例・・ 16
- (3) テーマ特化型歴史系資料館のパターン化・・・・・・・・・・・・ 18
- (4) 事業シミュレーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

### 3. 広場

- (1) 広場の整備事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (2) 広場運営形態とメリット・デメリット・・・・・・・・・・・・ 22

### 4. 観光情報拠点

- (1) 総合観光案内の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

### 5. 物販

- (1) 設置パターンとメリット・デメリット・・・・・・・・・・・・ 25

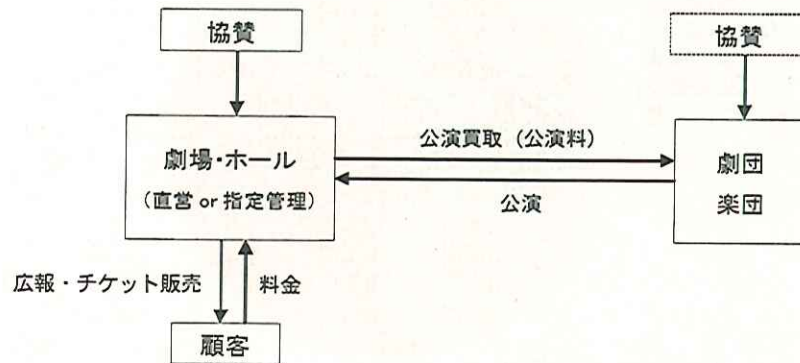
# 1. ホール

## (1) 運営形態について

### <公演開催パターン>

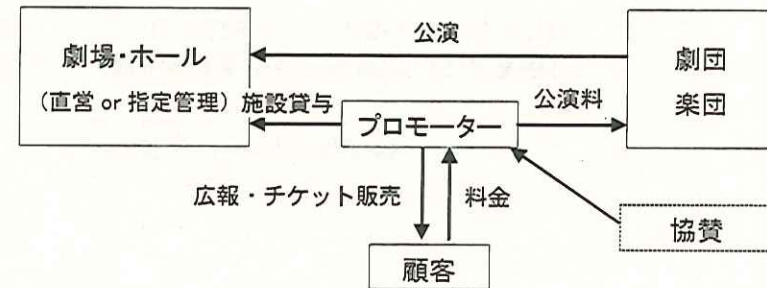
#### ■自主・共催事業型

公演全体を“買取り”、施設自らがチケット収入を確保。赤字分は別途補填。



#### ■プロモーター型(貸館型)

民間の独立採算の興行としてプロモーター等が施設を借り公演を実施するケース



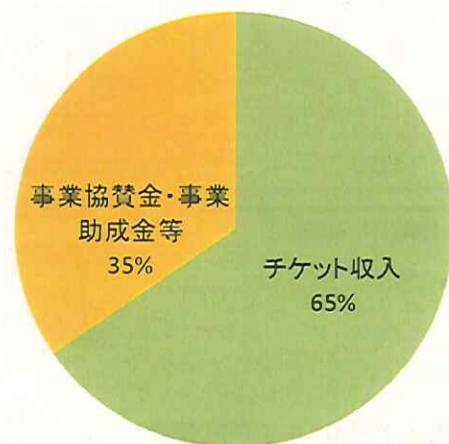
### <貸館型と創造型の運営の違い>

	運営イメージ	採算性	芸術・文化性
貸館型	自主事業は行わず、全て貸館として運営するタイプ。	人件費などの運営コストを最小限に抑えることで、創造型に比べ採算性は高い	自由度が高い反面、ジャンルやレベルなどのコントロールが難しい側面がある。
創造型	文化・芸術に対する自主事業を開催しつつ、貸館運営を行うタイプ。	一般的に自主事業の黒字化は困難な場合が多く、貸館型に比べ採算性は低い。	自主事業は芸術性、文化性を考慮できることから、地域文化に見合った開催が可能。

## (参考)自主事業の収支

自主事業については、有名アーティスト公演などの鑑賞型と市民参加等による創造型に大別されるが、運営事業者ヒアリングより、鑑賞型の1事業あたり費用を500万、チケット収支率を65%とした場合の赤字額は175万円となる。つまり、自主事業を年間40事業実施した場合の実施費は約2億円となり、負担額は7千万円となる。また、創造型の自主事業については基本的に収入は見込めないことから負担額は更に増加する結果となる。以上を踏まえ、ホール系施設の運営費は自主事業により大きく左右されることから、施設の設置目的等を踏まえた実施バランスが必要となる。

## ■平成20年度の自主事業総収入(総額)におけるチケット収入と協賛金・助成金等の比率



資料)「公立文化施設の事業に関する調査研究(自主事業等実態調査)結果報告書」  
(平成21年3月)(社団法人全国公立文化施設協会)

## 事業費500万円の場合

■1事業あたりの赤字額(行政負担額)  
500万円 × (1 - 65%) = 175万円

- ・年間実施事業数 20事業の場合 = 3500万
- ・年間実施事業数 40事業の場合 = 7000万

## (2)市内ホールの評価と課題(プロモーター、施設運営者等から聞き取り)

施設	プロモーター等の意見
長崎ブリックホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホールとしては非常に高いレベルの施設。機材の搬入なども極めて利便性が高い。</li> <li>・ 料金が非常に高いのがネック。</li> <li>・ 1階席で1200名程度だが、2階席が開いていると抜けている感じがして会場として利用し辛い。</li> <li>・ 大手プロモーターからの打診があるが、予約が確保できず年数件断っている状況。</li> <li>・ ブリックよりも大きな施設は不要では。</li> </ul>
長崎市公会堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者数は平均で1,000人程度。メジャーアーティストであれば1,300人程度。通常は、1Fイス席+2F端を少し使って1,100人程度。メジャーアーティストでも完売は難しい。</li> <li>・ ステージと客席の一体感・臨場感がある。ブリックとは違った魅力がある。</li> <li>・ 公会堂がなくなると中間のアーティストの会場がなくなるので困る。1500人キャパの施設は必要。</li> <li>・ 老朽化が問題。</li> </ul>
長崎市民会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽化が問題。</li> <li>・ 規模は丁度良いが音響が悪い。</li> </ul>
長崎市内新規需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アリーナツアークラスは5000人以上の施設がないので除外する。</li> <li>・ 長崎で必要なのはライブハウス。</li> <li>・ 大型コンサートは稲佐山で開催しているが、5000人～8000人入らないと採算が取れない。</li> <li>・ 演劇系でいえば500人キャパ以下の施設がない。演劇系はそれで十分。専門施設があれば十分開催可能性はある。</li> <li>・ 舞台としてはステージは大きいほど好ましい。</li> </ul>
アルカスSASEBO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンサート設営に自由度が高いことが魅力。公会堂やブリックとは違う。</li> <li>・ 2階席、3階席が別々で借りられるのはイベントとしては利用しやすい。珍しいシステム。</li> <li>・ 中ホールは音楽専用ホールとしては非常に高いレベルであるが、クラシック以外の用途では利用しにくい面もある。</li> </ul>

## (3)ホールの規模感に関する意見(プロモーター、施設運営者等から聞き取り)

	プロモーター・施設運営者等の主な意見
300席規模 音楽専用ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に客席数に関係なく興行コストは発生。プロモーターとしては出来るだけ大きなホールを利用しチケットを捌きたいため、300席は基本的に採算的には成り立たないと思われる。プロモーター系の興行は難しいのでは(大手プロモーター)。</li> <li>300席の音楽専門となると、クラシック以外の用途は非常に限定される。ピアノの発表会などプライベート利用が主になる可能性大(施設運営団体)。</li> </ul>
300席規模 演劇専用ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>サブカルチャー要素が強い劇場としては500席未満でも成り立つ可能性がある。特に長崎市には市民劇場がないため、練習場も含めニーズは高い可能性あり(福岡市内劇団)。</li> <li>興行的には福岡の劇場として最も利用されているキャナルホールが1200席、福岡市民会館1700席など、一定のキャパは必要(大手プロモーター)。</li> <li>300席に拘る必要性はないのでは。500席程度の劇場のニーズは高いのでは(施設運営団体)。</li> </ul>
1000人規模 音楽・芸術専用 ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台との一体感を考えると1000～1200席程度の上質なホールがベスト(ホール運営会社)。</li> <li>市民会館とはレベルが違うと思うがキャパが競合するので興行的には注意が必要。公会堂と同規模のニーズが高いのでは(大手プロモーター)</li> </ul>
1000人規模 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民会館とキャパが競合するので興行的には注意が必要</li> </ul>